文学部通信教育課程

【2025 年度 大学評価総評】

文学部通信教育課程における 2025 年度の自己点検・評価は、遠隔教育における教育の質保証と社会的要請への適応という二重の課題に対して、組織的かつ柔軟に対応している点で高く評価される。特に、統合認証の付与およびオンラインスクーリングの導入は、教育機会の均等化と学修支援の質的向上を同時に実現する基盤的施策であり、時代の要請に即した改革の一環として注目される。また、卒業論文の電子提出制度を 2027 年度から導入予定とした点においても、長期的な制度設計と実務の両立を見据えた計画性が感じられる。

他方で、課題として継続的に指摘されてきた定員充足率の問題については、日本文学科における志願書様式の見直しをはじめ、入学者受け入れ段階での精緻な対応がなされており、定性的・定量的両面からの受験者動向の分析が進みつつあることは心強い。こうした試みは、伝統を継承しながらも構造的に転換を図る姿勢の現れであり、今後の定員確保および教育成果の可視化における成果として結実することが期待される。一方、専任教員採用について慎重かつ十分な議論を行い、教員構成の改善に繋がる専任教員の採用を実現しているものの、一部の人事で学部と市ヶ谷リベラルアーツとの間で要望に齟齬が生じ、採用に遅れが生じたことは、今後全学的に検討すべき課題であろう。

全体として、通信教育課程は、多様な学習者層に対応した教育展開を図るとともに、制度・運営両面における継続的改善を通じて、遠隔教育のフロンティアとしての地位を堅持している。今後も本課程の特性を踏まえた戦略的改善と効果検証の深化により、より質の高い通信教育の実現が期待される。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

Ⅰ．改善・向上の取り組み

（1）2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】（参考）

文学部通信教育課程では、2022 年度実施の学生モニターの結果を踏まえ通信教育部学生のニーズを把握すること、2023 年度には全学の学習支援システムの統合認証を学生に付与すること、オンラインスクーリングを導入することなど、教育課程・教育内容の適切な評価・改善を継続的に実施している点は高く評価できる。その効果の測定方法については、まだ道半ばであり適切な結果は得られていないものの、方法の検討・改善など前むきに取り組む姿勢は評価できる。ぜひよい結果がでることを期待したい。

一方で、現状分析の基準５：学生の受け入れについて、定員充足率の項目が（おそらく継続的な）課題となっている部分は、厳しい環境条件であるだろうことは想像しつつも、大学評価の観点からすれば一定の改善を期待したい、望まれるポイントである。おそらく問題意識は共有されていて、学科ごとに改善計画も策定されており、課題解決へ向けた前向きな取り組みとして評価される。他方、通常の通学課程においても将来の少子化傾向に鑑み、学生の確保対策に取り組んでいる最中である。それとは直接的な状況が異なるとしても、充足率の減少傾向が事実なのであれば、何かしら効果のある実効的な対策を講じる必要がある部分は共通である。絶対的パイが減る中で、いかに充足率を維持するかへの即効的な解決策を見つけることは難しい問題であるが、これまでの伝統・歴史を大切に温めつつも、時代の変化に臨機応変に対応してゆくしなやかな対応を期待したい。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

上記「総評」にて高い評価をいただいた「統合認証の付与」「オンラインスクーリングの導入」を踏まえて、該当学科にて概説科目・演習科目の配置や開講形態を含めたカリキュラム構成を検討し、2025 年度の授業編成に反映させた。あわせて、オンライン開講／対面開講に適したスクーリング授業の検討や、統合認証利用・オンライン活用に基づく試験実施・レポート提出の方法、卒業論文の電子提出の活用などについても検討を進めた。卒業論文の電子提出は、（従来の提出方法とあわせて）2027 年度から実施することを決めたので、引き続き適切な教育内容・方法の検討・改善を図りたい。

他方、課題として指摘のあった学生の受け入れについては、出願書類の内容について各学科で検証を行い、日本文学科の「志願書２」の改訂という形でその結果を反映させた。少子化などの厳しい環境条件の中で、その効果が学生の出願状況などにどのように表れるか、今後の影響を見極めたい。

＊第３回（6 月）・第４回（7 月）教授会議事録参照。

Ⅱ．全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

（１）自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

学部（学科）における「実践知」を体現する取り組みについて、改善･向上を図っていますか。 ≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫ ≪対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫		

（２）通信教育部の新たな改革に向けての取り組み

「『通信教育部改革の検証について（報告)』を受けて」（2021 年度第 8 回通信教育学務委員会資料 No.7）において示された新たな改革に向けた取り組みのうち、以下の点について、改善・向上を図っていますか。 ≪対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。≫		
初年次教育と若年層入学者への対応について	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫		
遠隔会議システムを利用したスクーリングの常設や教育のオンライン化について	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取り組んだ）
上記項目について【ＳまたはＢ】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Ｓの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Ｂの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫ １（１）の「評価結果への対応状況」にも記載した通り、2024 年度から、学生への統合認証付与に基づくオンラインスクーリングを開始した。それに伴い、オンライン環境下での試験の実施方法やレポート提出の方法などについても各学科で議論を進めたほか、卒業論文の電子提出についても検討を進め、2027 年度から従来の提出方法と併用してこれを実施することとした。今後のスクーリング科目（対面・メディア・オンライン）の設定についても、スクーリング授業の受講者動向を踏まえた検討を、各学科で行った。 ＊第３回（6 月）教授会議事録参照。		

Ⅲ．2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
年度目標	新たに導入した学習支援システムやオンラインスクーリングが今後のカリキュラムの見直しや再編につながるかどうかについて各学科において検討し、必要に応じてカリキュラム改編を行う。

達成指標		現在のカリキュラム編成状況を検証するための学科会議を開催する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	カリキュラム編成状況の検証は通信教育課程をもつ日本文学科・史学科・地理学科の３学科においてそれぞれ学科会議の中で行われている。概説科目や演習科目の配置や開講形態について検討が進められ、２０２５年度の授業編成に結実している。
	改善策	ー
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学習支援システムやオンラインスクーリングの導入を踏まえ、カリキュラムの編成状況を学科で検討し、それを 2025 年度の授業編成につなげることができた。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	今後、授業を実施する中で出てきた課題をさらなる授業編成の改善につなげていけるよう、検討を継続していく必要があるのではないか。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
年度目標		スクーリング授業の実施状況を検証する。あわせてスクーリングの開講日程について通学課程の開講日程との調整を図る。
達成指標		対面ないしオンラインで実施されているスクーリング授業が適切に配置されているかどうかを学科会議において検討し、必要に応じて改善を行う。また、スクーリングの開講日程について学務委員会で確認し、適切性を確保する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	スクーリング授業の実施状況を各学科で吟味し、オンライン開講にふさわしい授業や対面で行うべき授業について各学科で検討した。また、学務委員会において 2025 年度のスクーリングの開講日程に通学課程の日程との重複がないよう要望・確認し、その適切性を確保することができた。
	改善策	ー
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	スクーリングの授業形態や開講日程について学科および学務委員会で検討し、いずれについても適切性を確保することができた。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	スクーリングの授業形態の適切性については、今後も学生の要望等に鑑み、検討を継続していく必要があるのではないか。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるリポート評価点の成績への反映方法について検討する。
年度目標		学生に統合認証が付与され新しい環境の下で実施されるオンラインスクーリングにおいて、学習成果を適切に測定するための方法や課題について検討する。
達成指標		学科会議において議論し、その成果を教授会で共有する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学生に統合認証が与えられたことによるオンラインスクーリングの運営方法について、各学科における教育の特性に応じた報告と検討がなされた。特にオンライン環境下での試験の実施方法やレポートの提出方法について議論が進んだ。 さらに、新たなオンライン環境を活用し、卒業論文の電子提出について各学科で審議し、2027 年度から従来の方法と併用して開始することを第 3 回教授会で決定した。

	改善策	学生への統合認証の付与による効果と課題、取りうる対応については年度目標を超えた議論と成果が出ているため、今後も臨機応変に対応していくべきであろう。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	統合認証の付与によってオンライン環境が活用できるようになり、通信教育らしさがより一層発揮できるようになった。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	地方スクーリングなど、オンライン環境のないところでの運用についてはさらに検討が必要ではないか。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
年度目標		各学科の専門領域に対する学習意欲をもつ入学希望者を適切に入学させるために、出願書類の「志願書 2」を検証し、必要に応じて内容を変更する。
達成指標		学科会議において出願書類を検証し、変更について審議する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	出願書類の内容については各学科において適切に審議され、日本文学科において「志願書 2」を改訂することとなり、第 4 回教授会において承認した。
	改善策	ー
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	出願書類の内容についての検討を続け、日本文学科における「志願書 2」の改訂につなげることができた。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	ー
評価基準		教員・教員組織
中期目標		各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標		年齢、国際性等の観点から教員組織の現状を検証し、さらに多様性をもった教員構成を目指す。
達成指標		人事委員会および教授会において、過年度の教員採用状況を共有し、教員構成の将来像を見据えつつ、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	第 1 回・第 4 回・第 5 回・第 6 回・第 7 回・第 8 回人事委員会および教授会において、日本文学科、地理学科の専任教員採用について慎重かつ十分な議論を行い、教員構成の改善に繋がる専任教員の採用を実現した。 一方、英文学科における 2 表教員の採用については ILAC 諸語分科会との間に要望上の齟齬が生じていることから、学部・学科教育と教養教育を両立することのできる教員の採用に至っていないことには課題を残している。ただし、哲学科の 2 表教員の採用においてはそのような齟齬が生じることなく人事を進めつつある。
	改善策	ILAC 運営委員会のもとで進められるプロジェクトにおいて、英文学科で採用する教員の分野等について検討・調整する予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	日本文学科、地理学科において教員構成の改善に繋がる専任教員の採用が実現した。また哲学科の 2 表教員人事も進みつつある。しかし英文学科の 2 表教員人事は、学科・学部・ILAC 運営委員会において十分に議論を重ねつつも、思うように進展していない。
	改善のた	改善策にある通り、今後は 2 表教員人事を市ヶ谷キャンパス全体の問題として捉え、

	めの提言	ILAC と学部の間で要望の齟齬が起こらないよう調整していく必要がある。
評価基準		学生支援
中期目標		通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
年度目標		学生の希望をもとに導入したオンラインスクーリングに対する受講希望や受講状況を把握し、今後のスクーリング科目の設定に活用する。
達成指標		通信教育部の在学生アンケートやスクーリングの受講動向を各学科で検討する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通信教育部より提供を受けた各学科におけるスクーリング授業の受講者動向について、学科内で共有するとともに意見交換を行い、今後の参考にすることができた。
	改善策	ー
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	スクーリングの受講者動向を踏まえ、今後のスクーリング科目の設定について学科で議論を行った。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	ー
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標		より多くの社会人学生のニーズに応えられる、オンラインスクーリングの方策を検討する。
達成指標		オンラインスクーリングにおける開講科目の多様性を確保する方策について学科で検討を開始する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学科において授業編成を検討する際に、今後オンライン化する科目についても検討をはじめているところである。
	改善策	ー
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	仕事との両立を図る社会人学生のニーズに応えるために、オンライン科目拡充の検討を始めたことは評価できる。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	ー

【重点目標】

スクーリング授業の実施状況を検証する。あわせてスクーリングの開講日程について通学課程の開講日程との調整を図る。

【目標を達成するための施策等】

2024 年度より開始されるオンラインスクーリング（夏期 1 群、冬期 1 群、後期に実施される週末スクーリング）によって、スクーリング授業全体の受講動向がどのように変化するのか学科毎に確認する。また、オンラインスクーリングが科目の特性に応じて適切に実施されているかどうかを各学科において検討し、必要に応じて改善を行う。さらに、スクーリングの開講日程について学務委員会で確認し、通学課程授業との調整を通じて適切性を確保する。

【年度目標達成状況総括】

2024 年度の文学部通信教育課程においては、オンラインスクーリングの開始に伴って、前年度中に行ったオンライン開講にふさわしい科目の選定にもとづいて、その開講状況を各学科で検討・共有することができた。オンラインスクーリングはまだ実施初年度であることから、学生の履修動向が大き

く変化したとまでは断言できないが、上京することの難しい地方在住者のニーズをある程度満たしつつあると考えている。オンラインスクーリングに配置する科目の適切性については学科毎に検討が進められ、演習科目を対面で行う必要性を確認した学科もあり、次年度授業編成を考える上で大いに参考になった。スクーリングの開講日程については、2024 年度のスクーリングの日程の一部が通学課程の最終授業日と重複していたため、2025 年度については改善を依頼し、適切な日程を設定することができた。志願書の見直しも適切に行うことができ、教員採用についても日本文学科、地理学科において組織のあり方にふさわしい形で実現することができた。文学部通信教育課程では、2024 年度の目標を概ね達成することができたと認識している。

Ⅳ．2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
年度目標	スクーリング科目の実施形態として、対面／メディア／オンラインの配置バランスと有効性を検討し、カリキュラム編成につなげる。
達成指標	学科会議にて、2024 年度スクーリング科目の対面／メディア／オンラインの履修状況（および可能な範囲での 2025 年度の状況）を把握し、次年度以降のカリキュラムのあり方について検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
年度目標	昨年度導入したオンラインスクーリングの効果と課題を検証する。
達成指標	学科会議にて、オンラインスクーリングの受講状況や学生の取り組み状況等を情報共有し、どのような効果と課題があるのかを把握する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるリポート評価点の成績への反映方法について検討する。
年度目標	昨年度決定し、2027 年度から開始される卒業論文の電子提出に向けて、準備を進める。
達成指標	電子提出実施に向けた課題を学科と事務間で協議し、その結果を関連学科間で共有する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
年度目標	各学科の専門領域に対する学習意欲を持つ入学希望者を適切に入学させるため、出願書類の「志願書２」の適切性を検証して必要に応じて見直しを行う。
達成指標	出願状況を踏まえ、入学判定を行いながら出願書類の「志願書２」について今年度から変更した、あるいは変更しなかった影響を各学科で把握し、必要があれば変更を加える。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標	各学科のカリキュラムに応じた適切な教員構成の実現に向けて、教員組織が通学課程と連動している通信教育課程として適任者の採用を実現する。
達成指標	今年度新規教員募集を予定している日本文学科、地理学科の人事において、適任者の選考・採用を行う。あわせて昨年度来の課題となっている英文学科の新規採用人事において、学部・学科の専門教育を担いつつ教養教育を充実させることのできる適任者の選考・採用を行う。
評価基準	学生支援

中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
年度目標	オンラインスクーリングが導入されたことを踏まえ、学生たちがどのような理由でどのような授業形態を望んでいるかを把握し、必要に応じてスクーリング科目の開講形態について検討する。
達成指標	各学科のスクーリング授業の受講者動向について情報共有し、卒業論文二次指導などを活用して各学科で受講希望や受講状況を把握する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標	社会人学生の受講状況や取り組み状況を把握し、今後のスクーリング科目の開講形態の方針に活用する。
達成指標	2024 年度スクーリング科目の対面／メディア／オンラインの履修状況を踏まえ、社会人を含めた多様な学生のニーズに応えられるスクーリング科目の開講形態について各学科で議論する。

【重点目標】
スクーリング科目の実施形態として、対面／メディア／オンラインの配置バランスと有効性を検討し、カリキュラム編成につなげる。
【目標を達成するための施策等】
2024 年度からオンラインスクーリングが導入されたことを踏まえ、スクーリング科目の対面／メディア／オンラインで変化した履修状況を把握することが可能になっており、また卒業論文二次指導なども活用して受講希望や受講状況を確認しながら次年度以降のスクーリング科目の対面／メディア／オンラインの適切な配分を各学科で議論し、カリキュラムのあり方について検討する。

IV-2.2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

文学部通信教育課程

評価基準	中期目標 （2022－2025年度）	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。	スクーリング科目の実施形態として、対面／メディア／オンラインの配置バランスと有効性を検討し、カリキュラム編成につなげる。	学科会議にて、2024年度スクーリング科目の対面／メディア／オンラインの履修状況（および可能な範囲での2025年度の状況）を把握し、次年度以降のカリキュラムのあり方について検討する。	S	第1回通教関連学科連絡会議において、2024年度スクーリング科目の受講者数について情報共有を行い、各学科に次年度以降のカリキュラムのあり方に生かすよう依頼した。2026年度は、メディアスクーリングの開講科目数が増加する結果となった。	—	スクーリング科目の履修状況を把握し、対面・メディア・オンラインの配置バランスについて検討が行われている。年度目標は十分達成されたと言える。	—
教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。	昨年度導入したオンラインスクーリングの効果と課題を検証する。	学科会議にて、オンラインスクーリングの受講状況や学生の取り組み状況等を情報共有し、どのような効果と課題があるのかを把握する。	A	2024年度スクーリング科目の受講者数を情報共有した結果、各学科でオンラインスクーリングの受講状況が可視化され、学生の取り組み状況の把握と合わせてその効果が明確となり、今後もオンラインスクーリングは継続する見込みである。	—	オンラインスクーリングの受講状況や学習状況を共有し、その効果と課題の把握が行われている。年度目標は達成されたと言える。	オンラインスクーリングの運用については引き続き効果検証を行い、授業形態の適切な組み合わせを検討してゆく必要がある。
教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるリポート評価点の成績への反映方法について検討する。	昨年度決定し、2027年度から開始される卒業論文の電子提出に向けて、準備を進める。	電子提出実施に向けた課題を学科と事務間で協議し、その結果を関連学科間で共有する。	B	卒業論文の電子提出は、すでに法学部と経済学部で実施されているため、文学部でもそのやり方を2027年度より導入していくこととなる。ただし文学部では紙媒体による提出も残すので、事務での適切な把握と教員の柔軟な対応が必要となってくる。その点についての協議はまだ行われていないが、関連学科では課題が共有されている状態である。	文学部における2027年度からの卒業論文の電子提出については、2025年度に関連学科が把握した課題について、2026年度に協議が行われる予定である。	卒業論文電子提出に向けた課題の共有は行われているものの、具体的な運用方法についての協議は今後の課題として残されている。課題の解決に至っているとは言えない。	卒業論文電子提出については運用方法の具体化に向けた協議を進め、円滑な実施体制を整備することが求められる。
学生の受け入れ	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。	各学科の専門領域に対する学習意欲を持つ入学希望者を適切に入学させるため、出願書類の「志願書２」の適切性を検証して必要に応じて見直しを行う。	出願状況を踏まえ、入学判定を行いながら出願書類の「志願書２」について今年度から変更した、あるいは変更しなかった影響を各学科で把握し、必要があれば変更を加える。	S	各学科で出願状況を適切に判断し、第4回教授会にて出願書類の「志願書2」を承認した。日本文学科で課題図書の変更があった。	—	出願書類の適切性について各学科で検証が行われ、必要な修正を加えた上で教授会承認に至っている。年度目標は十分達成されたと言える。	—
教員・教員組織	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。	各学科のカリキュラムに応じた適切な教員構成の実現に向けて、教員組織が通学課程と連動している通信教育課程として適任者の採用を実現する。	今年度新規教員募集を予定している日本文学科、地理学科の人事において、適任者の選考・採用を行う。あわせて昨年度来の課題となっている英文学科の新規採用人事において、学部・学科の専門教育を担いつつ教養教育を充実させることのできる適任者の選考・採用を行う。	A	日本文学科、英文学科、地理学科いずれの人事においても、適切な時期に人事選考を行い、適任者の採用に至った。英文学科の２表教員人事においても、ILACの関連分科会・部会と共同で選考委員会を組織し、適任者の採用に至った。	—	新規教員採用において適任者の選考が行われ、通信教育課程の教育体制に対応した教員構成の整備が進められている。年度目標は達成されたと言える。	今後も、関係組織との連携を図りながら、大局的な視点で人事を検討することが期待される。
学生支援	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。	オンラインスクーリングが導入されたことを踏まえ、学生たちがどのような理由でどのような授業形態を望んでいるかを把握し、必要に応じてスクーリング科目の開講形態について検討する。	各学科のスクーリング授業の受講者動向について情報共有し、卒業論文二次指導などを活用して各学科で受講希望や受講状況を把握する。	A	通信教育課程は学生の状況がさまざまであり、それに応じて受講希望や受講状況もさまざまであることが確認されており、各学科で多様なスクーリング科目の開講形態を維持する方針を確認している。	—	スクーリング受講動向の共有や学生の履修状況の把握を通じて、授業形態に関するニーズの確認が行われている。年度目標は達成されたと言える。	学生の履修状況や受講希望の把握を継続し、多様な学習形態に対応した支援体制の充実を維持することが望まれる。
社会貢献・社会連携	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。	社会人学生の受講状況や取り組み状況を把握し、今後のスクーリング科目の開講形態の方針に活用する。	2024年度スクーリング科目の対面／メディア／オンラインの履修状況を踏まえ、社会人を含めた多様な学生のニーズに応えられるスクーリング科目の開講形態について各学科で議論する。	S	通信教育課程の設置自体が社会貢献・社会連携を実現している側面があるが、各学科でこれまでのスクーリング科目の履修状況を踏まえ、適切な変更を加えて2026年度スクーリング科目を開講できる予定である。	—	履修状況を踏まえたスクーリング科目の配置検討が行われ、社会人を含む多様な学生の学習機会確保に向けた取り組みが進められている。年度目標は十分達成されたと言える。	—

自己評価について
S　目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
A　目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
B　目標の達成が不十分である。
C　目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
スクーリング科目の実施形態として、対面／メディア／オンラインの配置バランスと有効性を検討し、カリキュラム編成につなげる。	2024年度からオンラインスクーリングが導入されたことを踏まえ、スクーリング科目の対面／メディア／オンラインで変化した履修状況を把握することが可能になっており、また卒業論文二次指導なども活用して受講希望や受講状況を確認しながら次年度以降のスクーリング科目の対面／メディア／オンラインの適切な配分を各学科で議論し、カリキュラムのあり方について検討する。

【年度目標達成状況総括】

上記の通り、教育課程・学習成果以外のすべての項目において、年度目標・達成指標にかなう対応を実践できた。特に、重点目標としたスクーリング科目の実施形態についての把握を次年度のカリキュラム編成につなげることは、各学科で適切な情報共有を行うことで充分に実現することができた。オンラインスクーリングの継続とメディアスクーリングの充実は、今後も進めていく予定である。また教育課程・学習成果における課題であった、2027年度からの卒業論文の電子提出については、すでに電子提出を行っている法学部や経済学部の事例を参考にして、2026年度に各学科と事務部で適切な協議を行い、課題を把握して実施に結びつける予定である。